

6. 発掘調査ならびに整理作業参加者は下記の皆様である。記して厚く感謝の意を表したい。

〈発掘調査参加者〉（敬称略）

会沢 泉、新井和枝、荒井美奈子、飯塚泰子、井上晴江、内田信治、海老原サナエ、大井美智子、大曾根キク子、笠原英子、金子君子、金丸文男、神木光治、川部栄子、小林こずい、小山エミ子、斎藤尽志、酒井 昭、佐久間ひろ子、佐々木定男、鈴木英子、鈴木エミ子、関田成美、瀬戸加代子、高木千恵子、高橋明美、戸澤竹二、中嶋末子、仲里しげ子、永塚美千代、並木宗次、野岡由紀子、野沢松代、林きぬ子、比嘉洋子、三村美代子、森脇やよい、山下一枝、若尾久美子、若林紀美代。

〈整理作業参加者〉（敬称略）

石垣ゆき子、小澤千恵子、小林登喜江、斎藤尽志、須藤さち子、杣木嘉図子、高橋けい子、丹治つや子、富岡康子、中田藤子、中野和子

凡 例

1. 本書の遺構・遺物挿図の指示は以下のとおりである。

(1) 縮尺は原則として

遺構配置図	1:300
遺物出土状況図	1:80
遺構平面図	1:60
炉などの詳細図	1:30
土器実測図	1:4
土器拓影図・石器実測図	1:3

(2) 遺構断面図の水糸高は海拔高を示す。（単位はm）

(3) 遺構図中の細数字は、床面もしくは確認面からの深さ（cm）を示す。

2. 住居跡名・土坑名・集石名は、遺跡内の通し番号にしている。

3. 胎土粒子に関する各項の基準は次のように定めた。

小礫；2.0mm以上、粗砂；0.2～2mm、細砂；0.2mm以下。

4. 本書では、岩宿時代を使用した。これは、先土器時代・無土器時代・旧石器時代などと言われているものである。発見遺跡名を時代名とした。

5. 本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括して大井町教育委員会生涯学習課に保管してある。

2 1993年度 埋蔵文化財試掘調査一覧

No.	遺 跡・地 点	所 在 地	面 積(m ²)	原 因	調 査 期 間
1	西ノ原遺跡第63地点	苗間 162-3,169	147	共同住宅建設	4/13~4/22
2	中沢前遺跡第6地点	苗間 202-1	506	個人住宅建設	4/23~4/26
3	西ノ原遺跡第64地点	苗間 94-1	327.05	共同住宅建設	4/27~4/28
4	神明後遺跡第1地点	苗間 281-1	615.47	共同住宅建設	5/6~5/11
5	神明後遺跡第2地点	苗間 295-2,299-3	1,688	道路築造	5/12~5/20
6	大井戸上遺跡第2地点	大井 701-1	350	個人住宅建設	6/11~6/15
7	西ノ原遺跡第65地点	苗間 145-1	615	共同住宅建設	6/7~6/11
8	西ノ原遺跡第66地点	苗間 133-2	474	共同住宅建設	6/30~7/19
9	本村遺跡第30地点	大井 155	411	個人住宅建設	7/28~8/30
10	本村遺跡第31地点	大井 154,155	484.19	共同住宅建設	8/4~8/5
11	東久保西遺跡第2地点	亀久保 419-1 他	75	竪坑工事	8/24~8/26
12	小田久保遺跡第1地点	大井 1,249-1	498.97	個人住宅建設	9/21~10/1
13	亀居遺跡第35地点	亀久保 1,012-7	470	個人住宅建設(曳家)	9/28~11/5
14	本村遺跡第32地点	大井 351	14,310	共同住宅建設	11/9~11/25
15	本村遺跡第33地点	大井 107,427-1	337	駐車場造成	11/11
16	中沢前遺跡第7地点	苗間 202-1,202-3	687	駐車場造成	11/26~11/29
17	東台遺跡第20地点	大井 649-27	5	個人住宅建設	1/30
18	本村遺跡第34地点	大井 533-5	1,013	共同住宅建設	12/2~12/3
19	西台遺跡第2地点	大井 897-1, 897-2	6,149	遊技場建設	12/13~3/31
20	西ノ原遺跡第67地点	苗間 159-2	308.05	倉庫建設	1/20~1/21
21	亀居遺跡第36地点	鶴ヶ岡 1-2-2	798.11	礼拝所建設	2/17~2/18
22	中沢前遺跡第8地点	苗間 206-2	137	事務所建設	2/3~2/4
23	苗間東久保遺跡第19地点	苗間 637-14,15,16	350	分譲住宅建設	2/8~2/15
24	亀居遺跡第37地点	亀久保 1,003-2,-6 他	566	店舗併用住宅	2/18~2/25
25	東台遺跡第21地点	大井 713-11,12	299.94	個人住宅建設	3/7~3/11
26	西ノ原遺跡第68地点	苗間字西ノ原 91-2,6	285	店舗併用住宅	3/22~3/25
27	江川東遺跡第1地点	東久保 1-145-14	52.38	個人住宅建設	3/24~3/25
合 計		31,959.16m ²			

調査地は、苗間地区12件、大井地区10件、亀久保地区3件、鶴ヶ岡地区1件、東久保地区1件である。遺跡別では西ノ原遺跡6件、本村遺跡5件、亀居遺跡3件、中沢前遺跡3件、神明後遺跡2件、東台遺跡2件、大井戸上遺跡1件、東久保遺跡1件、小田久保遺跡1件、西台遺跡1件、苗間東久保遺跡1件、江川東遺跡1件であった。

これまでの調査で確認されたのは土坑のみで、遺物は関山式と加曾利E式の土器が出土しているが、ごく限られた地点（第2地点）からだけの出土であり、実のところ遺跡の範囲については、未だ確定していない。本地点は、盛土が約80cm前後あり、遺構の確認面まで120cmを超える深さの表土を除去しなければならず、排土置場に苦慮した。確認方法は工事で地下へ影響を与える部分についてのみ削平した。その結果、南東コーナーで縄文時代の包含層特有の締め強い暗褐色土と北東部で土坑を確認した。包含層は厚さ確認のため掘り下げたが、前期土器片が数点出土したのみである。土坑内にはソフトロームと黒色土がサンドイッチ状に入り込み、中から陶器片と縄文土器片が出土した。

5-2 ^{なかざわまえ}中沢前遺跡第7地点 埼玉県遺跡 No.30-044

前地点とは南側道路をはさんだ部分で、客土が1mと厚い。第4図のように4本のトレンチをいれ精査を行なったが、包含層も遺物も確認されなかった。

5-3 ^{なかざわまえ}中沢前遺跡第8地点 埼玉県遺跡 No.30-044

トレンチ2本を設定し、重機で表土除去後、人力で精査をおこなった。その結果調査区南側にグズグズのロームブロックを多く含む根除け溝と思われる落ちこみを確認しただけであった。全測図を作成、全景写真を撮影し終了した。

1993年度に実施した3箇所及び既調査の結果から、本遺跡は、遺物散布地的性格の強い遺跡である可能性が高くなってきている。

6-1 ^{しんめいうしろ}神明後遺跡第1地点 埼玉県遺跡 No.30-041

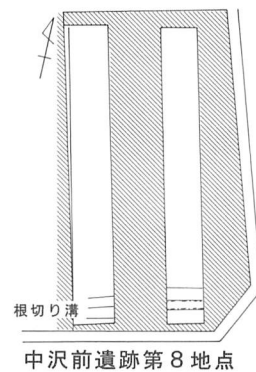
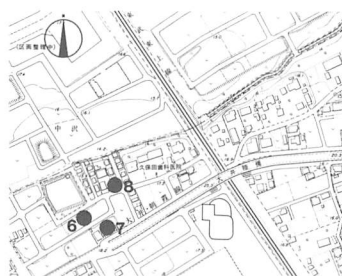
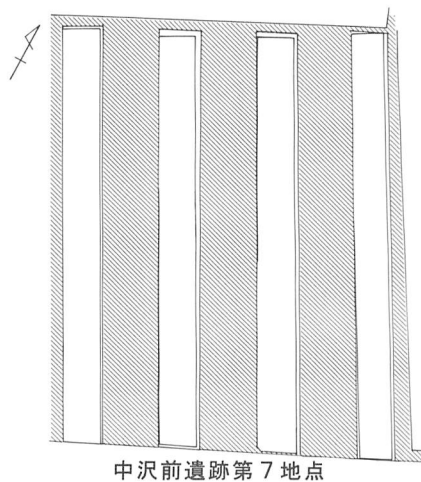
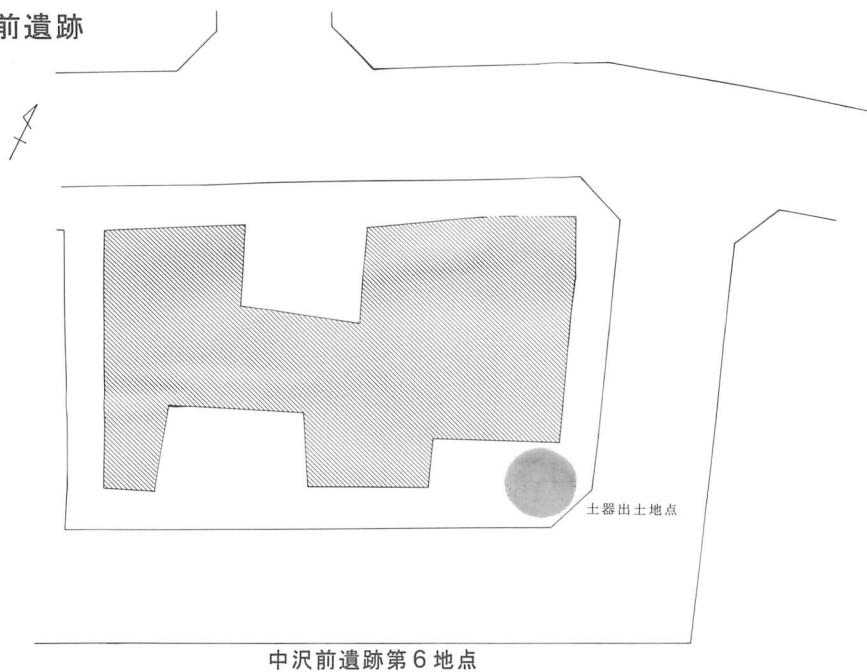
確認も含めて初めての調査を実施した遺跡である。遺跡は中沢前遺跡の東側にひろがり、東武東上線に93年11月開設した「ふじみ野駅」まで、徒歩数分の地にある。富士見市の外記塚遺跡とは間にさかい川をはさんで真向かいの位置にあたる。外記塚遺跡からはすでに奈良～平安時代住居跡1軒、近世の人骨出土の土墳墓・井戸跡等が発掘調査され概要が報じられている。

本遺跡の標高は16～15mで、外記塚遺跡と比較して約1.5m程高い。調査は東西に幅2mのトレンチを3本設定し、まず重機によって約40cm前後の表土を除去する。表土は上層が黒褐色土。下層はロームブロック混じりの黒褐色土。遺構はいわゆるイモビツと、土坑との認定は困難ながらも、底面が段をもち覆土もしまりがある遺構を確認した。遺構が僅かであったので、確認調査の範囲内で記録化した。また、遺構内ではないが、須恵器の皿・坏片、瀬戸美濃産の播鉢等が出土した。後述するが第2地点で平安時代の住居跡が確認されているところから、本遺跡は平安～中世にかけての集落跡であった可能性が高い。

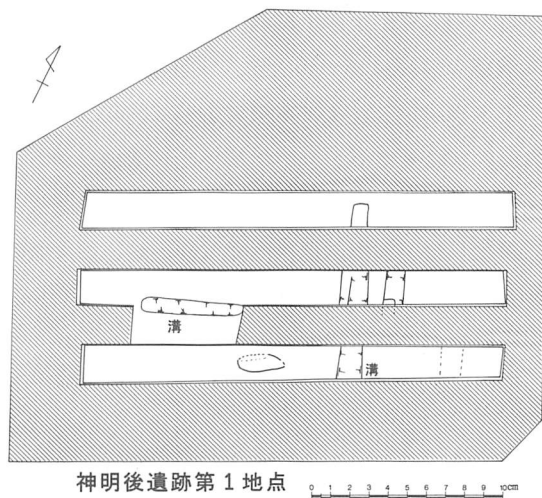
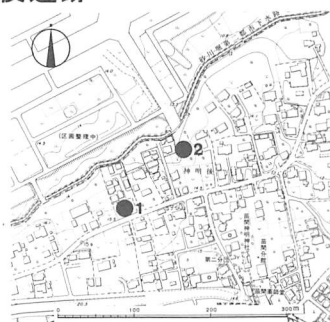
6-2 ^{しんめいうしろ}神明後遺跡第2地点 埼玉県遺跡 No.30-041

調査にはいる遺跡現況は南側が畑、北側が山林であったため遺構確認は畑地部分に限られた。幅2mのトレンチを7本、図のように設定した。重機で約50cm前後の表土を除去し、人力で遺構確認

中沢前遺跡



神明後遺跡



第4図 試掘調査位置図及び調査区域図(3)

のための精査を行なったところ、黒色土の落ちこみが各トレンチで認められた。落ちこみの性格・深さを確認するためトレンチの幅内で調査を行なった。その結果、歴史時代の建物跡、堀、井戸跡等であることが判明した。遺物は、カワラケ、常滑片、銅銭等が出土した。その後、本調査に移行することを考慮して、現地表面からの土層図をすべてのトレンチを記録化し、遺構の壁を保護するために遺構内に土のうを詰め、ビニールシート・板をかけて保護し1993年5月20日に発掘調査を終了した。

確認調査の結果にもとづき事業者である大井町と協議を行ない、開発予定区域全域を原因者負担による本調査を実施することとなった。このため大井町教育委員会社会教育課を事務局とする大井町遺跡調査会に調査を幹旋し、1993年5月12日から5月20日まで本調査を行なった。その結果、ほぼ開発予定地全域から縄文時代の陥穴1・土坑1、平安時代の住居跡1軒、歴史時代の井戸2・地下式墳1・方形遺構8・堀1・建物跡等の遺構を発見した。(現在整理作業中)

7 なえ まひがしく ぼ 苗間東久保遺跡第19地点

埼玉県遺跡 No.30-020

1994年1月17日付けで、分譲住宅建設に伴う「埋蔵文化財事前協議書」が提出された。申請地は、遺跡推定範囲のほぼ中央部に位置し、十分に遺構の所在が予想される地点で、隣接する東及び北側で、既に発掘調査で縄文時代の住居跡をはじめとする遺構群が多数発見されている。町教育委員会は、この点を事業者に対して理解を求め、2月8日から確認調査を実施することとした。

遺構の密度と、所在を確認するための調査と位置づけ、その後の本調査の事も鑑み、まず表土を約20cm程度を全面重機で鋤取った。その後2m方眼のグリッドを設定し、南北方向に南からA～J、東西方向に東から0～30の名称を付した。

調査は、排土処理を地権者の好意で隣地におけたため、円滑に進められた。本遺跡は縄文時代後期を主体とする遺跡で、しかも遺物包含層まで比較的浅いため、現地表下約25cm位から暗褐色土の該期特有の包含層を確認した。ただ、遺構のプラン確認までは、もう少し調査で掘り下げねばならず、2月16日に全部の遺構のプランをおさえるまでは、確認調査の範囲内で行なった。

その後継続して、3月25日まで原因者負担による本調査を行なうこととした。

発掘調査の結果、縄文時代早期の陥穴1、縄文時代後期(称名寺式期)の住居跡1軒・同期の土墳5基・ピット群等の遺構並びに該期の土器を発見した。

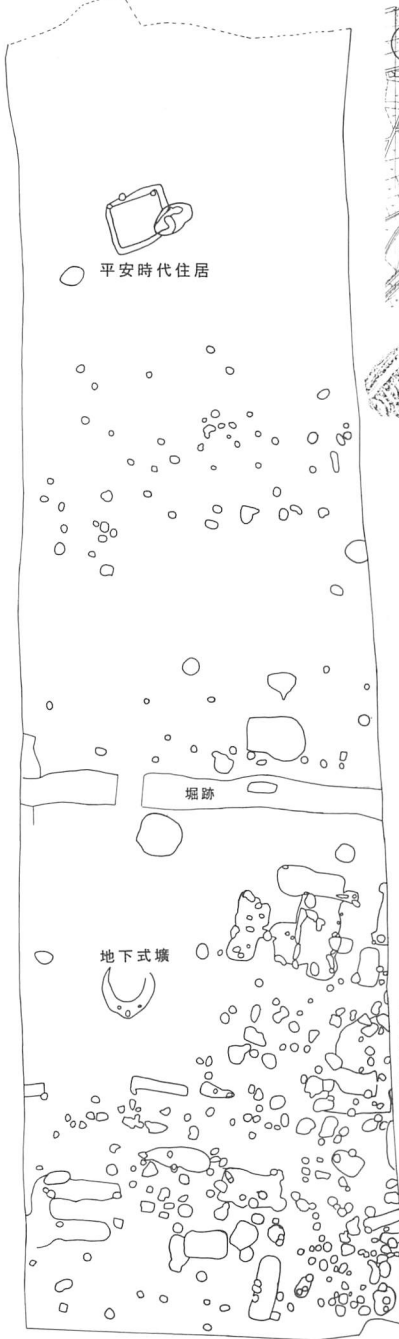
8 お だ く ぼ 小田久保遺跡第2地点

埼玉県遺跡 No.30-040

本遺跡は2回目の調査である。町内でもっとも内陸部に位置し砂川堀の左岸の西斜面から低位台地にかけて東西200m、南北100mほどの規模を有する縄文時代の複合遺跡である。標高26～25m。耕作中に採集された遺物によると、中期前半から同後半にかけての土器片が多く、当該期の集落が主体をなしていると思われるが、前期の黒浜式期の土器も注目される。

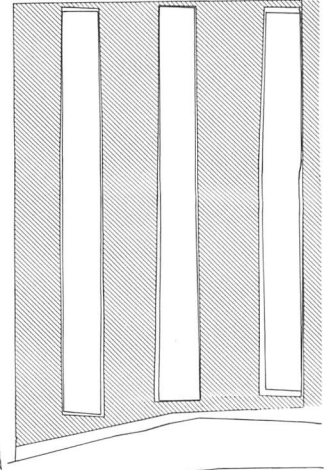
確認調査は、第5図のように幅2mのトレンチを4本設定し、重機にて表土を除去し、ローム面まで下げた。その後10月1日に遺構確認の精査を行なった。表土中より若干の縄文土器(勝坂式)の微細片と打製石斧が出土したが、遺構の存在は確認できなかった。

神明後遺跡



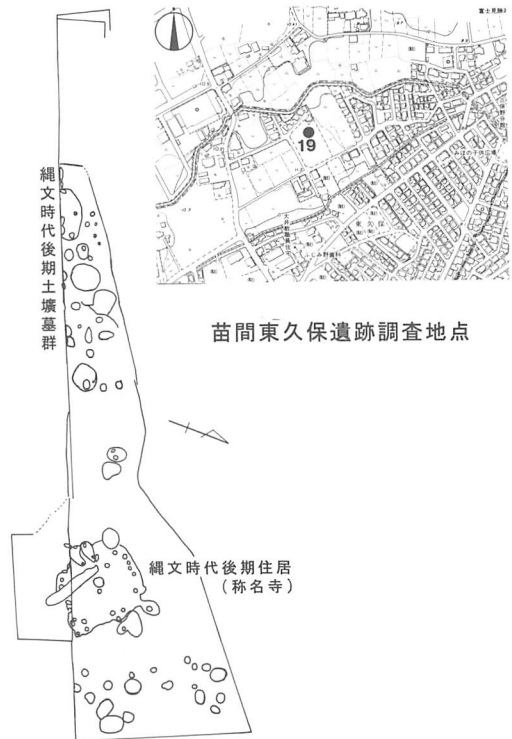
神明後遺跡第2地点遺構配置図 (1/400)

小田久保遺跡



小田久保遺跡第2地点

苗間東久保遺跡

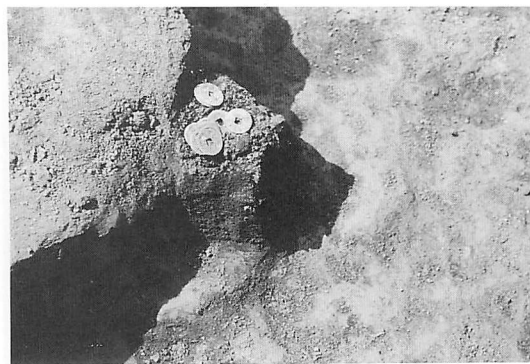


苗間東久保遺跡第19地点遺構配置図 (1/400)

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 m



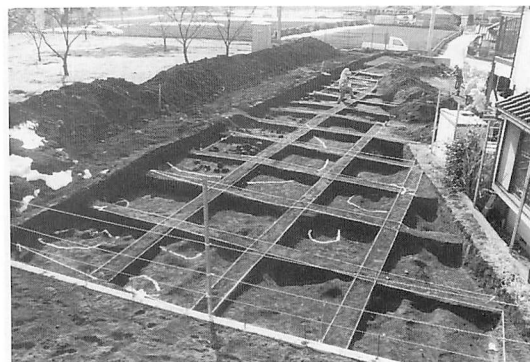
神明後遺跡第2地点・遺構確認状況



土坑土層

神明後遺跡第2地点

銅銭出土状況



苗間東久保遺跡第19地点・遺構確認状況



小田久保遺跡第2地点・トレンチ